2017 新春号 vol.28
今津赤十字病院広報誌

今津日赤だより

表紙写真「 菜の花畑と桜 」

基本理念

私たちは人道・博愛の赤十字精神のもと患者様に信頼される医療を行います。

基本方針

1.地域医療
地域の皆様から安心して健康を任される病院を目指します。

2.全人的医療
病気を治すだけでなく、病める人を癒す全人的医療を提供します。

3.医療と福祉の架け橋
医療が終わった後も、その方に適した生活を送っていただくためのお手伝いをする医療福祉センターを目指します。

TOPICS

本院の取り組み …… 1
2017年度 新年度を迎えるにあたり …… 2
病棟よりご挨拶 …… 3
外来を紹介します! …… 4
低栄養を予防しましょう …… 5
第6回 連携医リレー紹介 …… 6
トピックス『認知症研修会を行いました。』

今津赤十字病院
日本赤十字社 Japanese Red Cross Society
人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

本院の取り組み

院長
藤井弘二（ふじいこうじ）

今津日赤だよりの発行に当たり、一言ご挨拶させていただきます。まず、昨年は隣の熊本県で熊本地震という大地震が発生しました。被災された方々に心からお見舞い申し上げます。少しでも被災者や被災地の病院のお役に立てればと、発災直後から救護班、病院支援、健康支援等に当院から職員を派遣しました。皆様の赤十字を通じた震災募金活動へのご協力にも深く感謝申し上げます。被災地の一日も早い復旧、復興を祈っております。

さて、医療の分野では高齢化のピークが近づく2025年に向けた医療提供体制の再構築や、地域包括ケアへの取り組みが本格化してきています。地域包括ケアでは、高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしをできる限り続けることができるようサポートしていくことが求められています。

当院も昨年は地域包括ケア病床の拡充を行うとともに、病床の一部入れ替えも実施し、さらに認知症ケア回診も開始し、地域包括ケアにより一層貢献できるような体制づくりを進めています。

認知症ケア回診では、認知症専門医や認知症認定看護師らで編成したチームで病棟を回診し、認知症のある内科病棟の患者様の身体疾患の治療やリハビリがスムーズに進むように支援しています。

さらに、全職員が認知症サポーター（オレンジリングが目印です）になるべく院内研修を開催するなど、病院全体でさらに認知症への対応能力を高めています。また、当院では、内科疾患の治療が必要ですが、認知症があって一般病棟での治療が困難な患者様もできる限り受け入れたいと考えておりますので、そのようなケースがありましたら連携室にご相談ください。さらに、地域包括ケアシステムの実現には在宅療養へのサポートが必須ですが、当院の訪問看護ステーションは24時間対応可能な体制を整え、在宅療養を希望される患者様、ご家族の療養支援を行っております。

以上、これからも当院は地域で必要とされる医療を幅広く提供し、医療安全にも十分配慮して、地域の皆様の期待に応えられるように職員一丸となって頑張っていきたいと存じます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

2017年度　新年度を迎えるにあたり

事務部長
武田義夫（たけだよしお）

団塊の世代が全員後期高齢者となる2025年には、医療・介護ニーズが急増し、その世代が平均寿命に達する2035年には年間160万人が死亡する多死社会になると推測されます。このような社会変化を目前に控えた今般、2018年3月末で医療療養病床のうちの25対1と介護療養病床の廃止に向け、それに替わる制度の検討が進められている状況です。国の目指す方向は「医療機関の機能分化・強化と連携、在宅医療の充実」を基本とした地域包括ケアシステムの構築であり、言い換えると、それぞれの病院が機能に応じた自院の役割を明確にし、連携を図り、できるだけ早く住み慣れた地域、在宅へ患者さまを復帰させ、それを地域全体で支えていく、「地域完結型」のシステムをつくることです。

医療経営も大きな転換期を迎えていく中、地域の医療機関が地域医療の将来像を共有し、それに向けてどのような医療サービスを提供していくべきかを考える必要があり、病院連携を強化していくことが当院にとっての重要な課題です。

今年度は、次の5つの事業への取り組みを強化し、地域に愛され、信頼される病院を目指します。

01　地域包括ケア病棟の充実・強化（病床機能分化）
急性期後および介護施設からの患者さまを受入れる病床で、在宅へつなぐ役割があります。
現在1病棟（30床）にて稼動しておりますが、今後も期待される病棟であることから、さらなる稼動安定を図ってまいります。

02　地域の医療機関・福祉施設との連携（医療連携の強化）
連携を強化することで、できるだけ早く住み慣れた地域、在宅へ患者さまを復帰させ、
それを地域全体で支えていく、「地域完結型」のシステムを目指します。

03　病棟機能改編による稼働率向上の推進（機能に応じた役割）
現在の診療内容、当院の強みと弱み、地域で果たしてきた役割、改革すべき診療機能を分析し、
地域のニーズに対応した病棟改編を行い、稼働率の向上を図ってまいります。

04　医療安全体制の再構築
医療安全体制の見直し、周知、研修等を実施し、職員の意識変革とともに職員一同が医療安全に取り組む体制を作り上げてまいります。

05　神経難病医療の質向上
神経専門医を確保し、神経難病患者の医療の質向上を図り、更なる在宅との連携を行います。

さらに、認知症診療をひとつの柱とする病院として、2025年に約700万人（高齢者の約5人に1人）に増加すると言われている認知症の方が住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指すことを目標に、認知症疾患医療センターや地域の医療機関とも連携を図り、その実現に、地域で中心的な役割を果たしていく所存であります。

病棟よりご挨拶

1病棟
（障害者施設等病棟）

病棟師長　山口 真由美

私が勤務する1病棟は、神経難病や意識障害などで身体の不自由な方が多く入院されています。

医療的な処置として痰の吸引が必要な方や、言葉でのコミュニケーションが困難で、文字盤や機器を使用される方がおられ、患者様の表情変化をみながら言いたいことを受け止められるよう努めております。

多くの方が長期的な療養が必要な場合が多く、患者様が長期的な療養生活が安心して出来るよう、お一人お一人の思いに寄り添える看護の提供を意識し、スタッフ一丸となって頑張ります。

2病棟
（精神科病棟）

病棟師長　白木 潤子

当院は長年認知症治療に力を入れてきました。その中で精神科病棟の特徴として、入院中に行う院内デイケアがあります。デイケアといえば在宅からの通所をイメージされる方が多いのですが、入院中からデイケアへ参加することで日中は頭と体を動かし、夜はゆっくり眠っていただけるように生活のリズムを整えています。認知症患者さんは不安が強いために、何度も同じことを聞いたり、歩き回ったりといった行動・心理症状が出現することも多いのですが、デイケアは、その方が「出来ること」を探し、「安心する方法」を見つける場と考えています。患者さんがその人らしく生活するためには、その方の趣味・嗜好を知ることが大切なため、ご家族から患者さんのことを教えていただけると大変助かります。当院には認知症看護の認定看護師や認知症ケア専門士も多数いますので、介護についてのお悩みや疑問に思うことがありましたら、お気軽にお声かけください。
スタッフ一同明るい笑顔でがんばります。

3病棟
（地域包括ケア病棟）

病棟師長　小野 哲雄

3月より、5病棟（療養病棟）から異動になりました。3病棟は「地域包括ケア病棟」として運用しております。

地域包括ケア病棟とは、急性期治療終了後、在宅や介護施設への復帰支援に向けた医療や支援を行う病棟です。本来は急性期病院での病状が安定すると、早期の退院となっていますが、もう少しの入院療養が必要な患者様も多く、そういった方々に当院の「地域包括ケア病棟」をご利用いただき、安心して退院し社会復帰していただけるような支援を目指しています。入院期間は60日限度と規定されておりますが、患者様が心身ともに回復できるよう、医師・看護師・リハビリスタッフが治療・支援を行い、さらに、医療ソーシャルワーカーが患者様の退院後のケア継続についてサポートさせていただきます。

5病棟
（介護・医療療養病棟）

病棟師長　永井 千治

3月より、3病棟（地域包括ケア病棟）から異動になりました。5病棟は、医療療養病床（11床）と介護療養病床（19床）のベッド数30床の介護療養病棟です。看護師・介護福祉士・看護助手と共に情報共有と連携して、患者様の「その人らしさ」を意識したQOLに対するケアの提供を心がけています。

今年も地域の皆さまに安心と満足を提供できるよう、安全な看護・介護に務め、皆さまに信頼される病院・病棟として、全職員が日々努力していきたいと思います。

外来を紹介します！

受付

当院の外来には、一般内科と精神科があります。内科では、主に高血圧・メタボリック症候群など生活習慣病や老年病に対しての診療を、精神科では、認知症の診療を行っております。

処置室

皆さま、ご自分の「健康」について意識していますか？毎日を楽しく過すためにかかせない「健康」は、自分自身で気を付けていなければ崩してしまいがちです。

また、歳を重ねる毎に病気にもかかり易くなってきます。

是非、定期的に受診や健康診断を受ける様にしましょう！

診察室

私たち外来スタッフは、皆さまが受診の際にお困りにならない様、ゆっくりしたお声かけ・わかりやすい言葉かけを心がけています。皆さまが、地域で安心して過ごせるようにサポートさせて頂きたいと思っております。

待合室

皆さまの健康や療養・介護などでの小さな不安や悩みにもお答えして行き、「困った時には、今津日赤に相談！」と思って頂ける様頑張っています。待合室からの眺めと、今も昔もフレッシュナース（？）の私たちが、皆さまのお越しをお待ちしています！

低栄養を予防しましょう

管理栄養士　大西 玲子
内海 斉美

低栄養って?

　からだをつくり維持するうえで欠かせない栄養素をとれなくなりたんぱく質やエネルギーが不足した状態です。

じょうずに食べて
元気に長生き

高齢者は特に注意!

　高齢になると、若い頃よりからだの筋肉や骨や水分が減り、体力も落ちてくるため、低栄養になると右の図のような【低栄養の悪循環】が起きやすくなります。

　それらが重なってさらに食べる力が失われ、寝たきり状態や死に至る危険も高まります。

低栄養に早く気付くためのチェックリスト

- ☐ 食欲が低下し食事量が減ってきた
- ☐ あっさりした献立を好むようになった
- ☐ 体重が減ってきた
- ☐ 風邪を引きやすくなった
- ☐ 疲れやすくなった
- ☐ 足がむくむようになった
- ☐ これまで渡れていた横断歩道を渡れなくなった

■にチェックが入ったら、食事を見直しましょう

単品の献立になっていませんか?

このように、小さな工夫で
少量で効率よく栄養がアップしますよ!

栄養が整った食事は元気の源。いろいろな食品を摂る事が大切です

一日にこれくらいの食品を摂りましょう
※腎臓病などの病気のある人は、そちらの指示に従ってください

			含まれるおもな栄養
第1群 卵・乳製品	おもに骨を強くし、体の力をより高める	卵1個　牛乳1～2杯　ヨーグルト1個	たんぱく質 カルシウム 鉄 など
第2群 肉・魚・大豆製品	おもに血や肉の元になる	薄切り肉 3～5枚　切り身魚 1切れ　納豆 1パック　豆腐1/6丁	たんぱく質 ビタミン 鉄 カルシウム など
第3群 野菜・芋・果物	おもに体の調子を整える	緑黄色野菜 100g　淡色野菜(海藻やきのこを含めて) 250g　じゃが芋 小1個　りんご 1/2個	ビタミン ミネラル 食物繊維 など
第4群 穀類・油脂・砂糖	おもにエネルギー源や体温の元になる	ごはん 1食に1杯　油やバター 大さじ1強くらい　砂糖 大さじ1くらい	糖質 食物繊維 脂質 など

朝食・昼食・夕食の充実、おやつの効用も見直しましょう

第6回 連携医リレー紹介

当院では、さまざまな医療機関との連携を大切にしています。このコーナーでは、リレー方式で各医療機関の方に登場していただき、連携について語っていただきます。第6回目は、さくらのクリニックです。

さくらのクリニック（糸島市志摩桜井）

院長　鷺坂（さぎさか） 英輝（ひでき） 先生

ある晴れた日の午後、「ここの景色は最高ですね」私が話しかけると、その人はニコニコしながら震える手で文字盤を指し、微かな声で喋り始めました。聞く方も必死です。「べ・っ・そ・う」僅か４文字を拾うのに 10 分間。ようやく謎が解けた時、私たちは顔を見合わせて大笑い。

窓の外にはキラキラと輝く博多湾が広がり、まさに「別荘」そのものです。多系統萎縮症で寝たきりのその人とご家族にとって、この景色と優しいスタッフは、高級別荘にも勝る癒しの空間なのです。

▲九州初！緊急往診車「ホスピスカー」導入

私共が在宅でケアする患者さんは、末期癌から人工呼吸器装着状態の神経難病まで様々です。こうした方々が安心して生活出来るのは、バックアップ体制万全の今津赤十字病院さんと、24 時間体制で寄り添って下さる訪問看護ステーションのお蔭です。更に、褥瘡管理の専門ナースや訪問リハビリの PT 等の配置、認知症専門デイ・ケアなど、「至れり尽くせり」のサポート体制です。本当に心強く、何時も感謝しております。これからも宜しくお願い致します。

トピックス

“明日から活かせる認知症ケア”研修会

➤ 平成28年12月14日（水）、認知症研修会を行いました。

認知症プロジェクトチーム

近隣のクリニック、施設の皆さまにお声かけし、当院の認知症デイケアや認知症病棟での関わりの実際について、事例を交えご紹介させていただきました。後半は、グループディスカッションを行い、有意義な意見交換ができました。

皆さまからは「今後も認知症の研修会を継続してほしい」や「リハビリや看取りについても聞きたい」などのご意見をいただきました。また、定期開催や事例検討会のご要望もあり、このような場を通じ、より地域連携を充実させ、地域全体で認知症対応力の向上を目指していきたいと思います。

診療案内

＊**診療科目** 内科・精神科(認知症)・神経内科・胃腸科・循環器科・リハビリテーション科・放射線科
＊**受付時間** (月曜日～金曜日)午前8時30分～午前12時00分及び午後1時30分～午後4時30分
＊**休 診 日** 土曜・日曜・祝日、年末年始(12月29日～1月3日)、日本赤十字社創立記念日(5月1日)
※ご不明な点がございましたら、お気軽に病院までお問い合わせください。

今津赤十字病院　外来診療担当表

平成29年4月1日から

診療科目			月	火	水	木	金	土	日
内科	午前	初診	森・川本	森 佐保	富田 祐亮	品川 有里	川本 夕季		
		再診	尾前 豪	藤井 弘二	小倉 玄睦(1、3、5週) 横手 顕(2、4週)	藤井 弘二(生活習慣病)	藤井 弘二		
					尾前 豪	川本 夕季	森 佐保		
					古瀬 正徳				
	午後(初診及び再診)		古瀬 正徳	川本 夕季	富田 祐亮	品川 有里	尾前・古瀬		
精神科	午前(再診のみ)		田中 和宏	藤井 康平	勝冶 一夫	勝冶 一夫	古賀 勝治	デイケアのみ	デイケアのみ
	午後 認知症外来 (新患・予約制)		勝冶 一夫	勝冶 一夫	勝冶 一夫		勝冶 一夫		
			藤井 康平		藤井 康平		藤井 康平		
					畑部 暢三		古賀 勝治		

病院へのアクセス

JRでのアクセス

＊JR九大学研都市駅下車の場合
JR九大学研都市駅南口前より病院無料送迎バスをご利用ください。
(下記時刻表を参照ください)

＊JR今宿駅下車の場合
昭和バス「今宿駅前」バス停より、「西の浦行き」乗車、「日赤入口」バス停下車、徒歩約10分

お車でのアクセス

西九州自動車道今宿ICより約10分

無料送迎バスのご案内

JR九大学研都市駅南口前より、無料送迎バスを運行しておりますので、お気軽にご利用ください。

便		第1便	第2便	第3便	第4便	第5便	第6便	第7便	第8便	第9便	第10便
病院→JR九大学研都市駅南口前		8:55	9:35	10:15	10:55	11:35	12:15	12:55	13:35	14:15	14:45
JR九大学研都市駅南口前→病院		9:15	9:55	10:35	11:15	11:55	12:35	13:15	13:55	14:35	15:00
運行日	平日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	土日祝祭日	ー	○	○	○	○	ー	ー	ー	○	ー

※平成27年2月1日改正

日本赤十字社 Japanese Red Cross Society
今津赤十字病院
〒819-0165　福岡市西区今津377番地
TEL(092)806-2111(代表)　FAX(092)806-2314
ホームページ　http://www.fukuoka.jrc.or.jp/imazu/

平成29年3月29日発行　発行／今津赤十字病院
発行責任者／藤井 弘二　編集委員長／武田 義夫